

佐渡総合高校 人権ニュース（教職員・生徒・保護者 配布）

【第7号】令和6年3月11日 人権教育・同和教育・男女共同参画委員会発行

1. 卒業式 答辞 から学んだこと

3/1(金)令和5年度の卒業証書授与式が挙行されました。来賓の方々から「素晴らしい卒業式でした」と言われるまでもなく、参加者の皆さんは厳粛な中にも、卒業生の活動ぶりが解るような素晴らしい式でした。今回の人権ニュースでは、答辞を述べた三井空さんの言葉に見られた人権意識を味わいましょう。

期待に胸を躍らせて入学しながらも、コロナ禍で制限された高校生活で、不安と向き合い、自分自身を見つめた日々を送ったことが述べられました。

更に、年次が進み、系列の本格的な授業に取り組みながら、進路選択をする中で、「将来何をしたいかを問う自分の姿」に気付きます。



「先生方や友人と進路について話していくにつれ、一人一人が違うことを改めて確かめ、それぞれが興味を持っているものを組み合わせて各自の世界が成り立っていると気が付きました。三年生の後半に向け、みんなが自分の進路と向き合っていました。」

そして在校生の皆さんにぜひとも伝えたいこととして、

『今出会う人との繋がりを大切にする』ということです。今隣にいる友人や先生方。人との繋がりの中で私たちは多くを学び成長するのです。ただ、人との関わりが増えると対立する場面やいざこざも当然増えることになります。その時に大切になるのが『自分の当たり前と他人の当たり前は違う』ということです。

私は学校は勉強するだけの場だと思い、登校する必要はないと考えていた時期がありました。けれども、何よりも学校は人との繋がりを確認する場だったのです。人は必ず誰かと関わりながら生きています。親であったり、先生であったり、先生であったり、友人だったり。これは社会生活でも同じです。高校では私とあなたをつなぎ、そこから別の誰かと繋がり、際限ない人と人との繋がりのきっかけを与えてくれるのです。人は自分一人ではなかなか自らの誤りを正せません。他人がいるからこそ正すべきポイントがわかるのです。高校は『出会いを作り、自分を見直す場所』なのです。自分の当たり前を鍛え、更にそのレベルを上げていくのです。だからこそ、これこそが『高校に行く意味』だと思うのです。」

同級生、先輩、後輩、先生方、保護者の方々、しっかりと真摯に関わりながら、佐渡総合高校の中で、自分の学びが何であったのが気付いていける場。そんな佐渡総合高校であった事を、職員として誇りに思います。

今後も、そんな学び合いの伝統、お互いを尊重し合う伝統、を育んで行きましょう。

困っている友達の側に立ち「困っている」と声を出せる佐渡総合高校に！